

検査情報月報



2013
12月

横浜市衛生研究所

平成25年12月号 目次

【トピックス】

横浜市における自殺の現状(平成24年)	1
遺伝子組換え食品の検査(その2)	5
海水浴場水質調査	7

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 平成25年11月	8
-------------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(平成25年11月分)	12
--------------------------------	----

横浜市における自殺の現状(平成24年)

－神奈川県警提供のデータの解析－

日本の自殺者数は、平成10年に一挙に8,000人余り増加して3万人を越え、その後も高い水準が続いています。平成18年10月、国を挙げて自殺対策を総合的に推進することにより、自殺の防止を図り、あわせて自殺者の親族等に対する支援の充実を図るため、「自殺対策基本法」が施行されました。また、この法に基づき、平成19年6月には、政府が推進すべき自殺対策の指針として「自殺総合対策大綱」が策定され、平成24年8月には、見直しが行われました。

横浜市でも自殺対策に係る庁内の密接な連携と協力により、自殺対策の推進を図るため、平成19年9月から横浜市庁内自殺対策連絡会議が設置されています。

感染症・疫学情報課では、横浜市こころの健康相談センターを通じて神奈川県警より「平成24年中の横浜市における自殺者」のデータの提供を受け、解析しましたので、その概略を報告します。

詳細は、<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/zisatsu/>に掲載しています。

1 総自殺者数および性別自殺者数

平成24年の横浜市における総自殺者数は、627人(男性:433人、女性:194人)で、男性が69.1%を占めました。平成23年と比べ、総自殺者数(722人)で13.2%減、男性(478人)で9.4%減、女性(244人)で20.5%減でした。総自殺者数の減少傾向は、平成22年から24年にかけて続いています(対22年比で16.0%減)。これは、主に男性(特に30歳代)の減少が反映したものとみられます(図1)。

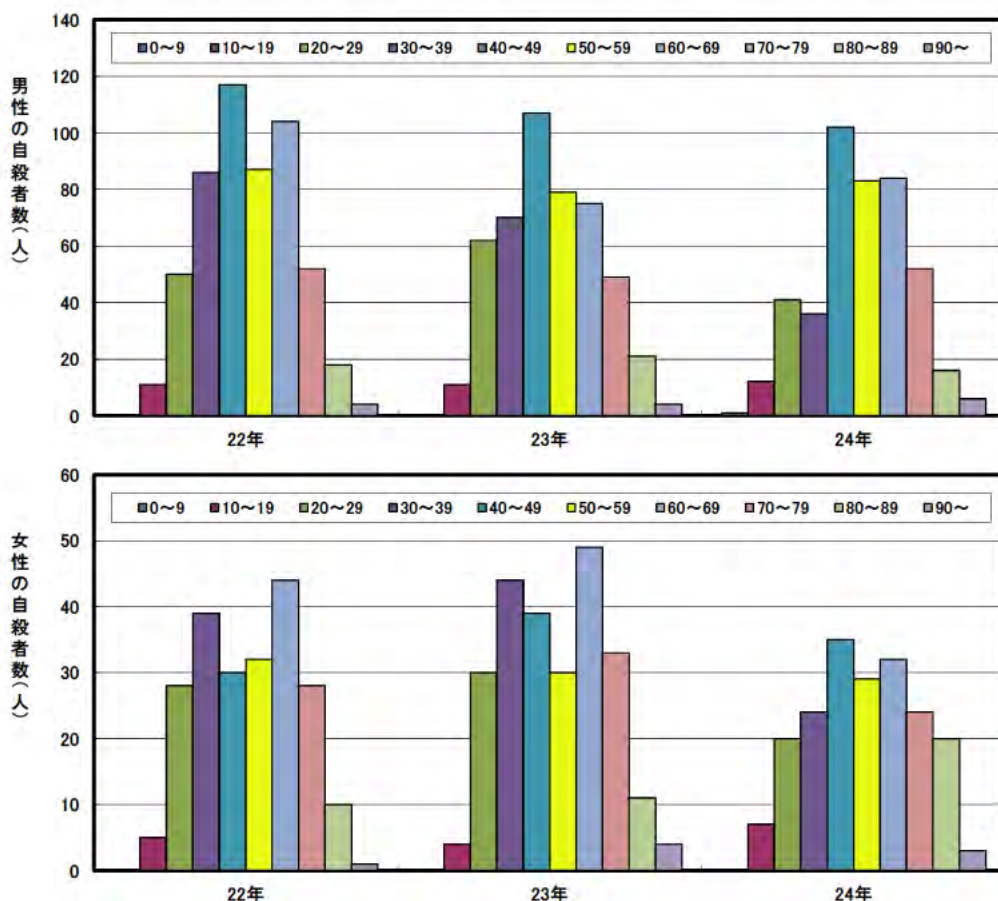


図1 年齢階級別自殺者数の推移

2 年齢階級別自殺者数

年齢階級別に自殺者数をみると、40歳代が137人(21.9%)で最も多く、次いで60歳代が116人(18.5%)でした。性別にみても、男女共に40歳代が最も多く、男性102人(23.6%)、女性35人(18.0%)でした。

男性では平成23年は40歳代を中心とする一峰性を示したのに対し、平成24年は40歳代以上のグループと30歳代以下のグループに二分された様相を示しました。

女性では平成23年は30歳代と60歳代を中心とする明確な二峰性を示しましたが、平成24年は40歳代と60歳代を中心とする比較的なだらかな二峰性を示しました(図1)。

3 月別自殺者数

月別に自殺者数をみると、10月が72人(11.5%)で最も多く、次いで3月と7月が共に64人(10.2%)でした。性別にみると、男性では10月が52人(12.0%)で最も多く、女性では6月が28人(14.4%)で最も多くなっていました(図2)。

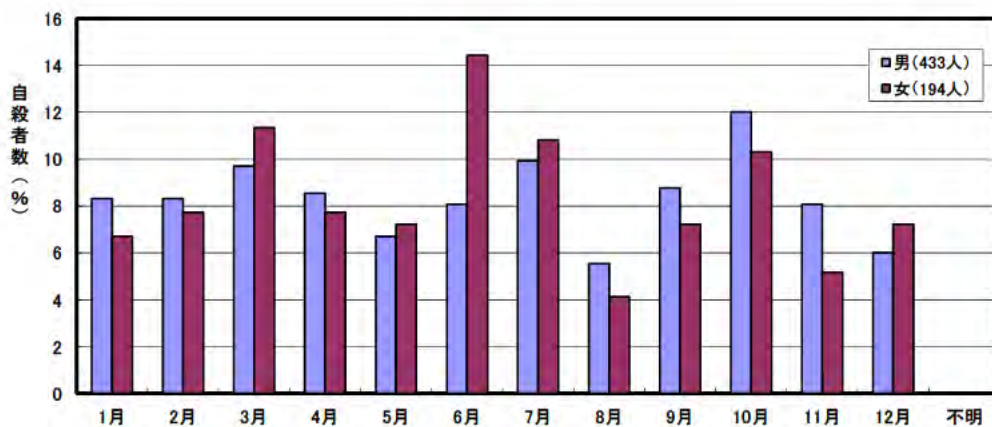


図2 月別自殺者数

4 曜日別自殺者数

曜日別に自殺者数をみると、金曜日が98人(15.6%)で最も多く、次いで木曜日が96人(15.3%)、火曜日が91人(14.5%)でした。性別にみると、男性では金曜日が74人(17.1%)で最も多く、女性では木曜日が31人(16.0%)で最も多くなっていました(図3)。

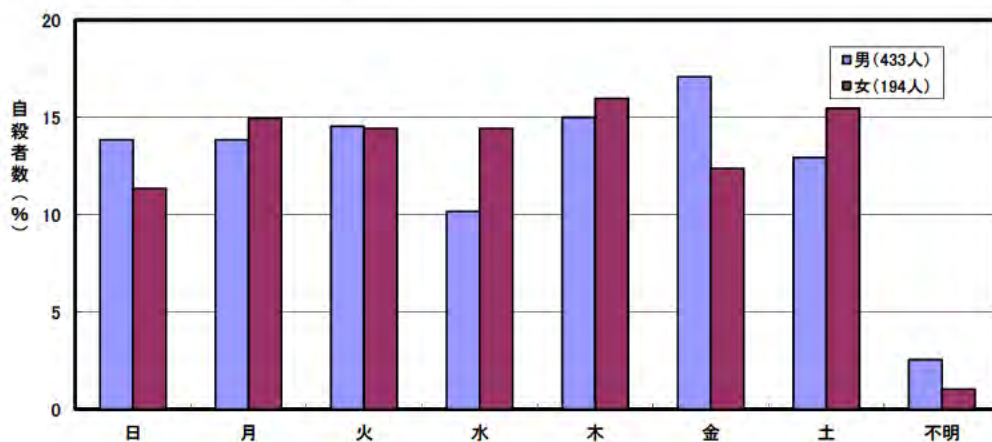


図3 曜日別自殺者数

5 時間別自殺者数

自殺の時間が判明した者487人(男性332人、女性155人)について、時間別に自殺者数をみると、0時台が37人(7.6%)で最も多く、次いで12時台が36人(7.4%)、10時台が29人(6.0%)でした。性別にみると、男性では0時台が26人(7.8%)で最も多く、女性では12時台が16人(10.3%)で最も多くなっていました。

6 自殺の場所

自殺した場所を20の項目に分類し*1、場所別に自殺者数をみると、「自宅」が404人(64.4%)で最も多く、突出していました。性別にみても、男女共に「自宅」が最も多く、男性250人(57.7%)、女性154人(79.4%)でした。次いで多いのは、男性では「公園」37人(8.5%)で、女性は「鉄道線路」11人(5.7%)でした。

横浜市で発見された自殺者627人(男性433人、女性194人)のうち、居住地が市内の者は582人(男性393人、女性189人)で、全体の92.8%を占めていました。

一方、自殺者の居住区と発見された区に違いがあるかをみると、居住区と同じ区で発見された者は538人(男性358人、女性180人)で、全体の85.8%でした。

さらに、自宅以外で自殺した者223人(男性183人、女性40人)についてみると、居住区と同じ区で発見された者は135人(男性109人、女性26人)で、自宅以外で自殺した者の60.5%を占めていました。

7 自殺の手段

自殺した手段を15の項目に分類し*2、手段別に自殺者数をみると、「首つり」が428人(68.3%)で最も多く、突出していました。性別にみても、男女共に「首つり」が最も多く、男性303人(70.0%)、女性125人(64.4%)でした。次いで多いのは、男女共に「飛降り」で、男性44人(10.2%)、女性30人(15.5%)でした。

8 自殺の場所×自殺の手段

自殺の場所ごとに自殺の手段の内訳をみると、男女共に「自宅での首つり」が最も多く、男性194人(44.8%)、女性117人(60.3%)でした。次いで多いのは、男性では「公園での首つり」37人(8.5%)、「その他の場所での首つり」28人(6.5%)で、女性では「自宅からの飛降り」16人(8.2%)、「自宅でのその他の手段」11人(5.7%)でした(表1)。

なお、上位3位までの傾向は、男女共に平成23年と同様でした。

表1 自殺の場所×自殺の手段(上位10位)

男性					女性				
順位	場所	手段	人	(%)	順位	場所	手段	人	(%)
1	自宅	首つり	194	44.8	1	自宅	首つり	117	60.3
2	公園	首つり	37	8.5	2	自宅	飛降り	16	8.2
3	その他	首つり	28	6.5	3	自宅	その他	11	5.7
4	高層ビル	飛降り	19	4.4	3	鉄道線路	飛込み	11	5.7
5	鉄道線路	飛込み	18	4.2	5	高層ビル	飛降り	6	3.1
6	自宅	練炭等	15	3.5	6	その他	飛降り	4	2.1
7	勤め先	首つり	13	3.0	7	自宅	服毒	3	1.5
8	自宅	その他	11	2.5	7	自宅	練炭等	3	1.5
8	乗物	練炭等	11	2.5	7	自宅	刃物	3	1.5
10	自宅	刃物	10	2.3	10	福祉施設	首つり	2	1.0
10	自宅	飛降り	10	2.3	10	福祉施設	飛降り	2	1.0
					10	ホテル・旅館	首つり	2	1.0
					10	海・湖・河川	入水	2	1.0
					10	その他	首つり	2	1.0

9 職業カテゴリ

職業カテゴリ別に自殺者数をみると、男女共に「無職者」が最も多く、男性225人(52.0%)、女性154人(79.4%)でした。次いで多いのは「被雇用者・勤め人」で、男性136人(31.4%)、女性26人(13.4%)でした。

ほかにも、原因・動機(判断資料の有無)、自殺未遂歴、及びそれらの項目の組み合わせ等について解析しています。結果については、<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/zisatsu/>をご参照ください。

*1自殺の場所

自宅、下宿・寮、学校、勤め先、病院、福祉施設、ホテル・旅館、デパート、高層ビル、駅構内、鉄道線路、乗物、路上、公園、社寺境内、田畑、海・湖・河川、池・沼、山、その他

*2自殺の手段

首つり、有機溶剤吸引、服毒、練炭等、排ガス、その他のガス、感電、焼身、爆発物、銃器、刃物、入水、飛降り、飛込み、その他

なお、横浜市では、精神保健の向上及び精神障害者の福祉の増進を図るための専門機関として、「こころの健康相談センター」を設置しています。

URL: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/kokoronosodan-center/>

Tel: 045-671-4455

【 感染症・疫学情報課 】

遺伝子組換え食品の検査(その2)

遺伝子組換え食品は、内閣府にある食品安全委員会で安全性に問題ないと判断され、承認後、国内で製造・輸入・販売などが可能になります。検査は、承認済みのものについては定量検査(食品中に遺伝子組換え体がどのくらい含まれているかを調べる検査)を行います。一方、未承認のものについては定性検査(食品中に遺伝子組換え体が含まれているかを調べる検査)を行います。

平成25年9、10月に、各区福祉保健センターが収去した40検体について、遺伝子組換え食品の検査を実施しました。

1 遺伝子組換え大豆(RRS、LLS、RRS2)*¹の定量検査

豆腐19検体、ゆば1検体について、遺伝子組換え大豆(RRS、LLS、RRS2)の定量検査を行いました。これらの検体について、原材料(大豆)の表示には「遺伝子組換えでない」等の記載がありました(任意表示)。もし、分別生産流通管理*²が実施されていない場合は「遺伝子組換え不分別」等、遺伝子組換え大豆を原材料とした場合は「遺伝子組換え」等の表示が必要です(義務表示)。

定量検査の結果、いずれの検体も混入率は5%以下*³であり、違反検体はありませんでした(表1)。

表1 遺伝子組換え大豆(RRS、LLS、RRS2)の検査結果

品名	原産国	検体数	混入率5%を超える検体
豆腐	日本	19	0
ゆば	日本	1	0
計		20	0

*¹ いずれも除草剤耐性を持つ遺伝子を組み込んだ大豆の品種です。日本では、それぞれ平成13年(RRS)、平成14年(LLS)、平成19年(RRS2)に安全性審査を経て承認されています。

*² 遺伝子組換え農作物と非遺伝子組換え農作物を生産・流通・加工の各段階で混入が起らないよう管理し、そのことが書類等により証明されていることをいいます。

*³ 分別生産流通管理が適切に行われた場合でも、遺伝子組換え農作物の一定の混入は避けられないことから、大豆では5%以下の意図せざる混入が認められています。

2 遺伝子組換えコメ(63Btコメ、NNBtコメ及びCpTIコメ)*⁴の定性検査

コメ加工品10検体について、63Btコメ、NNBtコメ及びCpTIコメの定性検査を行いました。その結果、1検体(台湾産ビーフン)は検知不能*⁵でしたが、他の9検体は不検出で違反検体はありませんでした(表2)。

表2 遺伝子組換えコメ(63Btコメ、NNBtコメ及びCpTIコメ)の検査結果

品名	原産国	検体数	検出数	検知不能* ⁵
麺類(ビーフン)	台湾(3)、タイ(1)	4	0	1
ライスペーパー	ベトナム	2	0	0
米粉	日本	3	0	0
米菓	日本	1	0	0
計		10	0	1

*4 いずれも害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだコメの品種です。日本で未承認のため、食品衛生法により販売等が認められていません。

*5 検知不能とは、本来検出されるべき内在性遺伝子が不検出であり、検査の判定ができない場合をいいます。この原因として、加熱や加圧等の加工処理中に遺伝子が分解してしまうことが考えられます。

3 遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10^{*6})の定性検査

トウモロコシ加工品(菓子類)10検体について、Bt10トウモロコシの定性検査を行いました。これらの検体について、原材料(トウモロコシ)の表示には「遺伝子組換えでない」等の記載がありました(任意表示)。検査の結果、1検体(国産ポリコーン)は検知不能^{*5}でしたが、他の9検体は不検出で違反検体はありませんでした(表3)。

表3 遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)の検査結果

品名	原産国	検体数	検出数	検知不能 ^{*5}
トウモロコシ加工品(菓子類)	日本(9)、台湾(1)	10	0	1

*6 除草剤耐性と害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだトウモロコシの品種です。過去にアメリカで安全性審査が行われていない種子が誤って流通し、栽培された事例がありました。日本で未承認のため、食品衛生法により販売等が認められていません。

【 検査研究課 食品添加物担当 】

海水浴場水質調査



金沢区の「海の公園」は、市民に親しまれている横浜市で唯一の海水浴場です。5月（海水浴場開設前）及び7月（開設中）に環境省の依頼により検査を行い、調査結果を報告しました。

海水浴場水の採水は、健康福祉局生活衛生課が金沢福祉保健センター、環境創造局および公益財団法人横浜市緑の協会の協力を得て行いました。

1 対象施設及び試料

- (1) 対象施設 : 「海の公園」海水浴場
- (2) 採水日 : 平成25年5月7日・8日及び7月9日・10日
- (3) 試料 : 「海の公園」沖3地点で、1日に2回（午前・午後）採水した海水。4日間で計24試料。

2 検査項目

水質評価項目および参考検査項目を表1に示しました。

表1 検査項目

検査担当	水質評価項目	参考検査項目
福祉保健センター	油膜の有無、透明度	水温、気温、透視度、臭気等
衛生研究所	ふん便性大腸菌群数、 化学的酸素要求量(COD _{Mn})	腸管出血性大腸菌O157、 一般細菌数、pH

3 検査方法

環境省通知で定められた方法で実施しました。

4 検査結果と判定区分

水質判定項目と参考検査項目の結果は表2のとおりでした。環境省への報告値は、5月と7月の各2日分の検査結果から環境省通知で定められた方法で算出し、その値によって適（「水質AA」、「水質A」）、可（「水質B」、「水質C」）、不適に区分されます。今年度の水質検査結果を水浴場水質判定基準で判定したところ、判定区分は5月、7月ともに「水質B」でした。昨年度も5月、7月ともに「水質B」でした。

表2 「海の公園」海水浴場の水質検査結果および環境省への報告値

採水日	5月		7月		環境省への報告値		水浴場水質判定基準				
	7日	8日	9日	10日	5月	7月	AA	A	B	C	不適
水質判定区分					B	B	AA	A	B	C	不適
油膜の有無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	有
透明度(m)	1.0以上	1.0以上	1.0以上	1.0以上	1.0以上	1.0以上	1.0以上	1.0~0.5			0.5 未満
ふん便性大腸菌 群数(個/100mL)	2未満 ~2	2未満 ~2	2未満 ~12	2未満 ~4	2未満	2	2未満	100 以下	400 以下	1000 以下	1000 超
COD _{Mn} (mg/L)	2.0 ~3.2	3.0 ~4.2	2.7 ~3.8	2.4 ~2.7	3.1	3.0	2以下	5 以下	8 以下		8超
腸管出血性大腸菌 O157(/3000mL)	不検出	—	不検出	—	不検出	不検出					
一般細菌数 (cfu/mL)	0~9	1~39	3~5	1~21	—	—					
pH	8.1 ~8.3	8.3 ~8.4	8.4	8.3 ~8.4	8.1 ~8.4	8.3 ~8.4					

【 検査研究課 水質担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 11月

《今月のトピックス》

- インフルエンザの流行の目安である定点あたり 1.00 を上回る区が見られました。
- RS ウイルス感染症の報告が多い状況が続いています。
- 感染性胃腸炎の報告が増加しています。
- 水痘の報告が増加しています。

全数把握疾患 11月期に報告された全数把握疾患

細菌性赤痢	1件	後天性免疫不全症候群 (HIV感染症を含む)	1件
腸管出血性大腸菌感染症	2件	ジアルジア症	1件
腸チフス	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
レジオネラ症	3件	風しん	1件
アメーバ赤痢	2件		

＜細菌性赤痢＞Shigella flexneri (B群)の報告が1件ありました。国内での感染が推定されています。

＜腸管出血性大腸菌感染症＞2件 (O157 VT2、O103 VT1)の報告がありました。O157 VT2の事例では国内での感染が推定されており、原因は現在調査中です。また、O103 VT1の事例はイタリアでの感染が推定されていますが感染経路等不明です。

＜腸チフス＞1件の報告がありました。渡航先(ネパール)での感染が推定されています。

＜レジオネラ症＞肺炎型 2 件、無症状病原体保有者 1 件(入院時の検査で判明)の報告がありました。どちらも感染経路等調査中です。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症2件の報告があり、1件は国内での同性間性的接触、もう1件は国外での異性間性的接触による感染が推定されています。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞1件の無症状病原体保有者の報告がありましたが、感染経路感染地域等不明でした。

＜ジアルジア症＞1件の報告がありました。ネパールでの経口感染または水系感染が推定されています。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞3件の報告がありました。1件は50歳代女性(ワクチン接種歴無し)で、症状は発熱、咳、全身倦怠感です。血清型は7型でした。もう1件は70歳代男性(ワクチン接種歴不明)で、症状は発熱と咳で、肺炎が認められました。血清型は19型でした。残るもう1件は80歳代男性(ワクチン接種歴無し)で、症状は発熱と咳で、肺炎と低酸素血症が認められました。血清型は現在検査中です。

＜風しん＞1件の10歳代女性の報告がありました。予防接種歴は確認できませんでした。ペア血清で診断されました。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。予防接種の助成が実施されています。

◆[横浜市の風しん予防接種助成の詳細](#)(保健所)

定点把握疾患 平成25年10月28日から平成25年11月24日まで

(平成25年第44週から平成25年第47週まで。ただし、性感染症については平成25年10月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成25年 週一月日対照表

第44週	10月28日～11月 3日
第45週	11月 4日～11月10日
第46週	11月11日～11月17日
第47週	11月18日～11月24日

1 患者定点からの情報

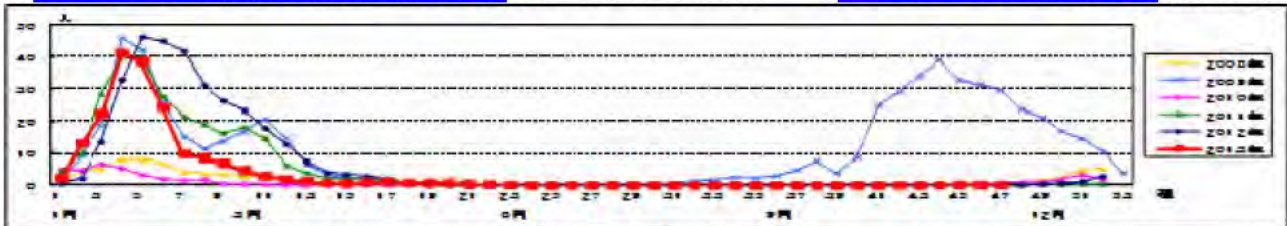
市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4

か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

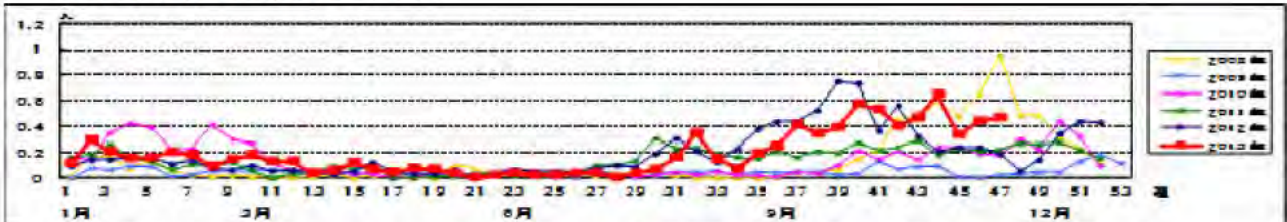
＜インフルエンザ＞第47週は市全体で定点あたり0.17と流行開始の目安となる1.00を大きく下回っていますが、緑区で2.20となりました。迅速キットの集計では、第46週A型65.2%、B型34.8%、第47週A型75.0%、B型25.0%と、シーズン初めにしてはB型の報告が多くなっています。全国のウイルス検出状況では、AH3亜型(A香港型)を中心に、AH1pdm09、B型(ビクトリア系統)、B型(山形系統)が混在しています。今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策が重要です。

◆横浜市インフルエンザ臨時情報(衛生研究所)

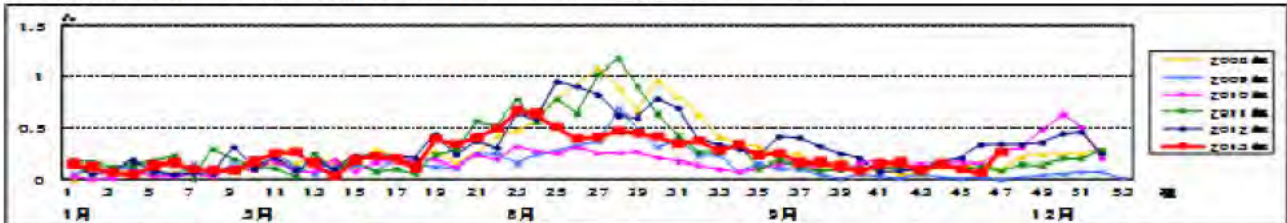
◆インフルエンザウイルス分離・検出速報(国立感染症研究所) ◆インフルエンザ予防チタン(横浜市)



<RSウイルス感染症>市全体で第47週0.48と報告の多い状況が続いています。寒い季節に流行する疾患でもあり、今後の注意が必要です。

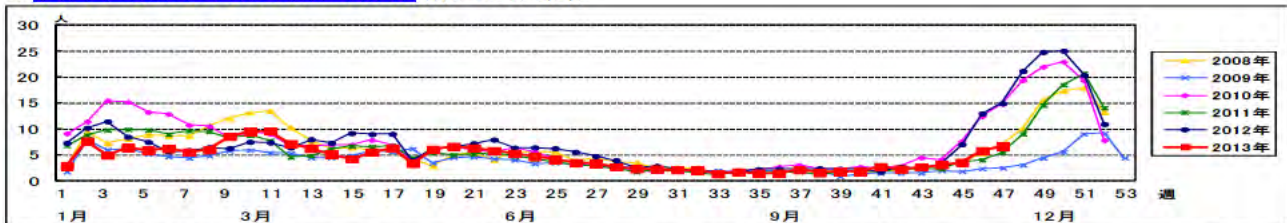


<咽頭結膜熱>市全体で第47週0.27とやや報告が多くなっています。

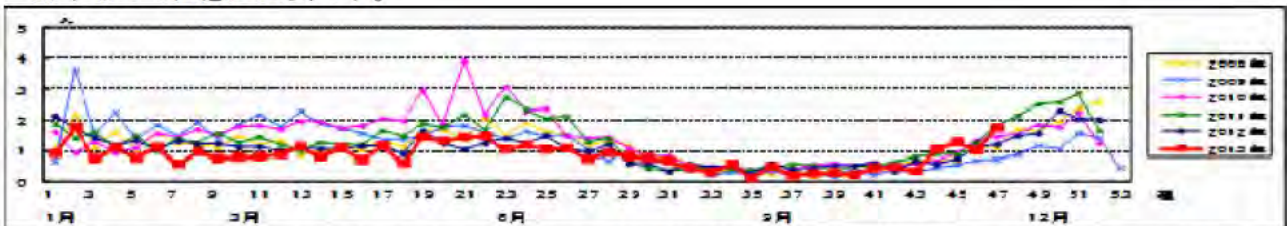


<感染性胃腸炎>市全体で第47週6.75と報告が増加しています。例年冬期を中心に流行する疾患であり、今後の注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

◆横浜市感染性胃腸炎臨時情報(衛生研究所)



<水痘>市全体で第47週1.79と報告が増加しています。瀬谷区では定点あたり9.75と警報レベル(7.00以上)、中区5.50、旭区4.60では注意報レベル(4.00以上)となっています。例年年末にかけて報告数が増加するので注意が必要です。



<性感染症>10月は、性器クラミジア感染症は男性が36件、女性が14件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が4件です。尖圭コンジローマは男性8件、女性が4件でした。淋菌感染症は男性が23件、女性が0件でした。

<基幹定点週報>マイコプラズマ肺炎は第44週1.25、第45週0.75、第46週0.75、第47週0.00となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第46週に1件報告がありました。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>10月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症9件、薬剤耐性緑膿菌感染症1件の報告がありました。薬剤耐性アシネトバクター感染症とペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

11月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点50件(鼻咽頭ぬぐい液46件、ふん便4件)、眼科定点1件(眼脂)、基幹定点5件(鼻咽頭ぬぐい液3件、髄液2件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎22人、下気道炎18人、耳下腺炎、胃腸炎各4人、インフルエンザ、突発性発疹(疑い)各1人、眼科定点は流行性角膜炎1人、基幹定点はムンプス(疑い)、けいれん重積発作、発熱、肺炎・肝障害、スティーブンス・ジョンソン症候群各1人でした。

12月10日現在、小児科定点の上気道炎患者3人と下気道炎患者4人からアデノウイルス(型未同定)、上気道炎患者2人からコクサッキーウイルス(B1型、B3型各1人)、耳下腺炎患者1人からムンプスウイルス、インフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスAH3型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の上気道炎患者3人、下気道炎患者2人、インフルエンザ患者1人からRSウイルス、上気道炎患者2人と下気道炎患者3人からパラインフルエンザウイルス(以下Para、4型3人、1型、2型各1人)、上気道炎患者1人と下気道炎患者4人からライノウイルス、上気道炎患者、下気道炎患者各1人からアデノウイルス(型未同定)、上気道炎患者、下気道炎患者各1人からアデノウイルスとRSウイルス、上気道炎患者、突発性発疹(疑い)患者各1人からアデノウイルスとライノウイルス、上気道炎患者1人からRSウイルスとPara3型、1人からPara2型と4型、下気道炎患者1人からRSウイルスとライノウイルス、1人からRSウイルスとPara1型、1人からアデノウイルスとPara4型、1人からライノウイルスとPara2型、胃腸炎患者1人からエコーウイルス25型、1人からノロウイルス、基幹定点の肺炎・肝障害患者1人からアデノウイルス(型未同定)とライノウイルスの遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

11月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から10件、定点以外の医療機関等からは10件あり、赤痢菌(*S.flexneri* 2、*S.flexneri* 6)2件、腸管出血性大腸菌3件、腸管毒素原性大腸菌2件、チフス菌1件、*Campylobacter jejuni* が5件でした。

その他の感染症は小児科から4件、基幹病院から3件、その他が8件でした。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(11月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	11月			2013年1月～11月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	10	10	5	93	87
菌種名						
赤痢菌		1	1		3	4
腸管病原性大腸菌					2	
腸管出血性大腸菌			3		1	61
腸管毒素原性大腸菌		2			4	
チフス菌			1		4	3
パラチフスA菌						2
サルモネラ				1	20	
カンピロバクター			5			5
不検出	0	7	0	4	59	12

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	11月			2013年1月～11月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	4	3	8	59	29	154
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1			1	1	
	T2			5		
	T4			10		
	T6	1		8		
	T12			4		
	T25	1		3		
	T28			3		
	T B3264			3		
	型別不能	1		1		
B群溶血性レンサ球菌			2	1		2
G群溶血性レンサ球菌			1			3
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					10	
バンコマイシン耐性腸球菌					2	21
<i>Legionella pneumophila</i>						3
インフルエンザ菌	1			2		4
肺炎球菌		1		5	4	22
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
黄色ブドウ球菌				2	5	1
結核菌						10
緑膿菌						63
百日咳		1			3	1
その他		1	2		4	6
不検出	0	0	3	11	0	16

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成25年10月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成25年11月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成25年10月のアクセス件数、アクセス順位及び平成25年11月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成25年10月)

平成25年10月の総アクセス数は、161,389件でした。主な内訳は、感染症情報センター73.8%、食品衛生5.6%、保健情報7.4%、検査情報月報4.2%、生活環境衛生2.5%、薬事0.8%でした。

(2) アクセス順位 (平成25年10月)

10月のアクセス順位(表1)は、第1位が「インフルエンザワクチンについて」、第2位が「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」、第3位が「マイコプラズマ肺炎について」でした。

10月の総アクセス数は、前月に比べ9%ほど低下しました。今月の1位の「インフルエンザワクチンについて」は、インフルエンザに感染している人たちが始めてき

ており、今後の動向への関心の高さの表れと考えます。2位の「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」や3位の「マイコプラズマ肺炎について」は、従来からアクセス頻度の高い項目となっています。

また、マイコプラズマ肺炎は、流行期に差し掛かってきており注意が必要です。アクセス件数は、依然として年間を通じて多くなっています。

表1 平成25年10月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	インフルエンザワクチンについて	11,571
2	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	6,930
3	マイコプラズマ肺炎について	4,597
4	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	3,670
5	衛生研究所トップページ	3,049
6	ぎょう虫(蟯虫)症について	2,988
7	サイトメガロウイルス感染症について	2,959
8	チメロサールとワクチンについて	2,662
9	HIV感染症について	2,638
10	感染症発生状況	2,430

データ提供:総務局IT活用推進課

厚生労働省のマイコプラズマ肺炎に関するQ&A(一般の人向け) 平成24年10月改訂

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou30/index.html>

「インフルエンザワクチンについて」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/influvaccine.html>

「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

「マイコプラズマ肺炎について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/mycoplasma.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成25年11月）

平成25年11月の問い合わせは、5件でした(表2)。

表2 平成25年11月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
RSウイルスの予防接種について	1	感染症・疫学情報課
トキソプラズマについて	1	感染症・疫学情報課
化学兵器被害について	1	感染症・疫学情報課
水道水における溶存酸素の健康に与える影響について	1	検査研究課水質担当が回答作成し、感・疫課から回答
アレルギー表示の“可能性表示”について	1	検査研究課

2 追加・更新記事（平成25年11月）

平成25年11月に追加・更新した主な記事は、16件でした(表3)。

表3 平成25年11月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
11月 1日	◆パンフレット◆ 細菌性髄膜炎を知っていますか？	更新
11月 1日	◆パンフレット◆ 肺炎球菌ワクチンを知っていますか？	更新
11月 1日	◆パンフレット◆ ヒブ(Hib)ワクチンを知っていますか？	更新
11月 5日	感染症に気をつけよう(11月号)	掲載
11月 6日	スイス・リヒテンシュタインのこどもの定期予防接種について	掲載
11月 7日	ドイツのこどもの定期予防接種について	更新
11月 7日	肺炎球菌感染症について	更新
11月 8日	平成25(2013)年度のインフルエンザワクチンについて	掲載
11月13日	インフルエンザワクチンについて	更新
11月21日	英国・ニュージーランドのこどもの定期予防接種について	更新
11月21日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
11月21日	横浜市インフルエンザ流行情報1号	掲載
11月28日	ペルーのこどもの定期予防接種について	掲載
11月28日	◆パンフレット◆ ノロウイルスによる感染性胃腸炎にご注意ください！	更新
11月28日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
11月28日	横浜市インフルエンザ流行情報2号	掲載

【 感染症・疫学情報課 】